

2010年3月期 第1四半期決算 電話説明会 説明概要

「2010年3月期 第1四半期決算 補足資料」をもとに説明致しましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2009年8月4日（火）
- ・説明者 取締役執行役員 横田 明宜

【連結業績】

2010年3月期 第1四半期決算の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。お手元の補足資料の左ページをご覧ください。

当四半期は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、35億円減の771億円、
- ・営業利益は、31億円減の11億円、
- ・経常利益は、31億円減の8億円、
- ・四半期純利益は、15億円減の4億円

となり、減収減益となりました。

【セグメント別売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。

①テーマパーク事業

売上高は、前年同期比60億円減の588億円となりました。

入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異については、補足資料右ページの表「(2)テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、東京ディズニーリゾート25周年の翌年であることに加え、週末や連休を中心とした悪天候の影響や、新型インフルエンザの発生に伴う団体ゲストのキャンセル及び訪日外国人旅行者数の減少などにより、前年同期を下回りました。

一方、ゲスト1人当たり売上高は、前年同期とほぼ同様となり、好調に推移しました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、前年同期とほぼ同様となりました。商品販売収入は、東京ディズニーシー限定の「ダッフィー」商品の販売が引き続き好調であったものの、25周年の翌年であることなどから、前年同期を下回りました。飲食販売収入は、ワゴン販売が好調であったことなどから、前年同期を上回りました。

②ホテル事業

東京ディズニーランドホテルの通年稼働により、売上高は前年同期比 16 億円増の 95 億円となりました。

各ホテルの客室稼働率の前年同期差異については、補足資料右ページの表「(3)ホテル客室稼働率」をご覧ください。各ホテルの客室稼働率は、25 周年の翌年であることに加え、新型インフルエンザの影響などにより、それぞれ前年同期を下回りました。なお、各ホテルの平均客室単価は、それぞれ前年同期とほぼ同様となりました。

一方、2008 年 7 月 8 日にグランドオープンした東京ディズニーランドホテルの通年稼働により、ホテル事業全体の売上高は増加いたしました。

③リテイル事業

売上高は、前年同期比 1 億円減の 33 億円となりました。

主な指標については、補足資料右ページの表「(4)ディズニーストア関連情報」をご覧ください。

ディズニーストアの既存店売上高は、景気悪化という環境の中、前年同期を下回りました。出退店状況ですが、5 月に水戸エクセル店をクローズし、御殿場プレミアムアウトレット店ならびに土浦イオン店をオープンしたため、当四半期末の店舗数は 58 店舗となりました。

④その他の事業

2008 年 10 月 1 日にグランドオープンしたシルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の通年稼働などにより、売上高は前年同期比 10 億円増の 54 億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。補足資料の右ページ中段をご覧ください。

⑤テーマパーク事業

売上高が減少したことに加え、25 周年関連除却費が 5 億円発生したことなどから、営業利益は前年同期比 39 億円減の 8 億円となりました。

⑥ホテル事業

各ホテルの客室稼働率は減少したものの、東京ディズニーランドホテルの通年稼働により売上高が増加したことに加え、同ホテルの開業前準備費用が 9 億円減少したことなどから、営業利益は前年同期比 3 億円増の 6 億円となりました。

⑦リテイル事業

売上高は減少したものの、前期に引き続き店舗人件費などの固定費の低減に努めたことなどにより、営業損失は前年同期より1億円改善し、1億円となりました。

⑧その他の事業

シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の開業前準備費用が3億円減少したことなどから、営業損失は前年同期より1億円改善し、2億円となりました。

セグメント別営業利益の説明は、以上となります。

【総括】

総括をさせていただきます。補足資料右下の「総括」をご覧ください。

対前年同期

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、

- ・ テーマパーク事業は、東京ディズニーリゾート25周年の翌年であることなどから、テーマパーク入園者数が減少したことに加え、25周年関連除却費が発生したことなどにより減収減益となりました。なお、ゲスト1人当たり売上高は前年同期とほぼ同様となり、好調に推移しました。
- ・ ホテル事業は、東京ディズニーリゾート25周年の翌年であることなどから、各ホテルの客室稼働率は減少したものの、東京ディズニーランドホテルの通年稼働により増収増益となりました。なお、各ホテルの平均客室単価は、前年同期とほぼ同様となりました。

対業績予想

数値は開示していませんが、業績予想と比較いたしますと、

- ・ テーマパーク事業は、ゲスト1人当たり売上高が予想を若干上回ったものの、週末や連休を中心とした悪天候の影響に加え、新型インフルエンザの発生に伴う団体ゲストのキャンセル及び訪日外国人旅行者数の減少などにより、テーマパーク入園者数が減少し、減収減益となりました。
- ・ ホテル事業は、予想以上のデフレ環境であったことに加え、新型インフルエンザの影響などにより、各ホテルの客室稼働率が予想を下回り、減収減益となりました。
- ・ リテイル事業及びその他の事業については、期初予想通りとなりました。

最後に、当四半期決算を踏まえた、第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想についてですが、前述の通り、当四半期は業績予想を下回って推移したものの、第2四半期以降がテーマパーク入園者数のボリュームゾーンであることなどを踏まえ、現時点では、第2四半期連結累計期間および通期の業績予想を変更いたしません。

以上